

## 令和7年度第3回高知県環境審議会総合部会議事録

場所：オーテピア 4階 研修室

日時：令和7年12月3日（水）14時00分から16時00分

出席委員：一色部会長、石川委員、岡村委員、澤村委員、濱田委員、横川委員

オンライン参加：常川委員

事務局：環境計画推進課、環境対策課、自然共生課

### 1 開会

### 2 林業振興・環境部 環境計画推進課長あいさつ

### 3 会議録署名委員の指名

審議に入る前に会議録署名委員の指名を行う。

運営規程により部会長が指名することとなっており、「澤村委員」と「岡村委員」に  
お願いする。

### 4 議題

#### (1) 高知県環境基本計画第六次計画（案）について

高知県環境基本計画第六次計画の策定状況については、事務局より資料1に基づい  
て計画案の第1章から第3章の説明を行った。

#### 【一色部会長】

高知県におけるウェルビーイングの表現については、18ページで説明いただいた表現の  
具体性については、このままでよいと思われませんが、10ページの下から2行目に「ウェル  
ビーイングの向上」、18ページの下から2行目に『『ウェルビーイング』の更なる向上』と  
あります。ウェルビーイングは状態を示すので「向上」は適当ではなく、「ウェルビーイン  
グの実現」とすべきだと思います。私が見つけたのはそのくらいでしたが、全文を検索して  
修正していただきたいと思います。

#### 【岡村委員】

「具体的な事例」と何度も出てきますが、あまり具体的ではないように思います。理念的  
には理解できますし、数量的に示されていて良いと思います。

環境を標榜した事例として、大阪万博がありました。大阪万博の大屋根リングの7割の  
材木が高知県産だとマスコミを通じて知りました。大変喜び、最大の榮譽だと感じておりま  
す。しかしながら、地元新聞でも県でもあまりアピールされておらず、不思議に思ってお  
ります。こうしたことは前にも県の資金を投じて実施されたCLTがありました。この集成材は  
防災面では長さ4メートルの合板で、制震作用を持っています。このおかげで家が潰れない  
ようになっており、大変需要があると聞いています。

万博という世界的なイベントにおいても大屋根リングに高知県産材が7割使用されてい  
て、ばらすことがもったいないので残す、という大きな政策に連なっています。こうした具  
体的な例はあるのになぜ前段の部分で出てこないのか、リストアップされてこないのか。特

に象徴的な例だと思うので、従来から実施しているものの現状や新たに世界的なプロジェクトの中で取り入れられた県産材の割合をアピールしていくことがアウトプットとして大変頼もしく思います。

「84の森」と言っても根の張りが薄いいわゆる針葉樹ばかりです。これは森林基本法に記載してある樹種のため仕方がないし、儲かり、有効に活用でき、地産外消に役に立っているため仕方がないところです。そういった具体的な事例を記載するのであれば他にもいっぱいあると思います。私が知っているだけでもあるのですから、概念的、理念的なものほかに、長門委員も主張されていまして、具体例として積み上げていくということは、すごく大事なことだと思います。

民間ベースで行っていることやデータをどれくらい県でモニターし、理解して統計上の集計をしていますか。どのような情報をお持ちなのか全く知らないの、民間ベースの取引は県の方でどのくらいモニターができるものなのかを教えてくださいたいです。

#### 【環境計画推進課 田村課長】

大屋根リングで県産材が利用されている割合に関しては、県が万博の事務局と話す中で情報を得ました。万博事務局から公に発信した情報ではなく、県からの情報発信です。大屋根リングの木材の活用は来年度の予算の中でどう活用するかを県庁の中で議論しており、次の展開のレガシーとして活かす検討をしているところです。

また、民間ベースの取引のモニタリングについて、木材の正確な数値は持っていません。全体としての統計の木材の取引量については統計上のデータはございます。民間同士の取引については、企業情報も関わるので個別には把握していないかもしれませんが、県内の木材の毎年度の数値を押さえながら統計を取っていると考えています。

#### 【岡村委員】

現在、我々のいるオーテピアのような建物は20年前には望めませんでした。大手の建設会社に関しても、集成材を用いてコンクリートよりも強いとアピールしながら都市型の大型ビルを木造化している方向にあります。加工技術が進歩しているということで、大屋根リングやビルがコンクリートから木材ベースのものに変わってきていることに対しては、高知県にとって大いに貢献できるものではないかと思います。「84」を私はこれまでネガティブに捉えてきましたが、プラスの面として地産地消、地産外消で経済的な価値に変えることが大事なのであれば、できるだけアピールしていただきたいと思います。民間ベースだからできないということはないと思います。企業にとっても良いことなのでアピールして欲しいはずで。

重要で具体的な例として、あるいは象徴的な例として県は大いに使うべきで、これらの努力は民間のものだからとはせずに、アピールしていただきたいと切に思います。

#### 【環境計画推進課 遠山課長補佐】

手元の資料を確認したところ、県産材の割合は全体の4割に高知県産品の杉が使われたとなっています。県内製材納入量を元に県が独自に起算しました。

**【環境計画推進課 田村課長】**

象徴的な具体例については、CLTの活用に関して、環境基本計画の下位にある地球温暖化の実行計画や紐づくアクションプランで進捗管理をしています。最上位の環境基本計画でどこまで具体性のあるものを載せるかといったレベル感がありますので、県民の方々にとって象徴的な取組として、どのような取組を載せるかはご意見を踏まえて再検討したいと思います。

**【岡村委員】**

概念や理念的なものはあって当然だと思います。その上で見合うだけの象徴的な具体例について、別途資料でもよいのでつけていただきたいというのが、長門委員のおっしゃることであり、私も賛同する部分です。県民にもっとわかりやすい資料を熱望しております。

**【環境計画推進課 田村課長】**

承知いたしました。その点を踏まえまして最終版を作成していきたいと思います。

**【石川委員】**

今の岡村委員のご意見に同感です。具体的な事例として21ページの下図13、これが何を意味するのが明確になっていくものであると思います。自然資本経営は新しい考え方の大きな柱です。ここに「価値が見える化」とあります。具体的なものがないと一般の県民の方にはわかりづらいと思いました。

また、真ん中あたりの太字部分の「価値を付加価値化する」が少し違和感があります。「新しい価値を加えていく」など自然な日本語にしてほしいと思います。

20ページ写真2の「高知県の自然」の8枚の写真は、生物多様性の意味を説明するために使った写真であり、上段が種の多様性、2段目が生態系の多様性、一番下が遺伝子の多様性なので「高知県の自然」というタイトルに写真がそぐわないと思います。このまま使うなら、1段目と2段目を入れ替え、高知県の海岸や里山など高知県の特性がわかるものに変えた方がよいのではないのでしょうか。特に遺伝子の多様性は差し替えが必要だと思います。

18ページの図12の、県民の暮らしと自然環境が共進化するという点については、最初見たときに違和感がありました。「高知家の幸せ『ウェルビーイング』の向上」のタイトルとして「高知県民の暮らし」、「84（はちよん）」のタイトルとして「自然環境」があるということですが、パッと見た時にタイトルが結びつきません。例えば、枠の中に入れ込むなど、考えないとわからないものはデザインをわかりやすい図に変えた方がよいです。

それと、5ページの図1の右側、計画の名称に「戦略」が抜けているので「生物多様性こうち戦略」に修正をお願いします。

また25ページ「地消地産」は、馴染みのある「地産地消」ではない理由を教えてくださいたいと思います。

29ページのイメージ図については、文字が小さくて見えづらいので、QRコードを入れて参照できるようにして原図の大きいものが見られるとよいのではないのでしょうか。細かい部分も読みたい方もいらっしゃると思います。

**【環境計画推進課 田村課長】**

まず、表現方法について、「付加価値化」に違和感があるという点。また、一色会長からいただいた「ウェルビーイングの向上」ではなく「ウェルビーイングの実現」ではないか等の表現方法につきましては、本日いただいたご指摘も含め検討いたします。

エネルギーの地消地産については、エネルギーを地元で先に使うということで、地元で使うものを地元で作るという考えのもと、この並びにしています。馴染みがない言葉なので、解説を入れるような工夫をしたいと思います。

29 ページの生物多様性の資料は、自然共生課と検討いたします。

文字が小さいところについて、QR コードを入れるというのは非常によいご指摘であると思いますので、このページに限らず QR コードの活用を考えたいと思います。

18 ページの図についてもデザインについてもご指摘の点を踏まえて検討します。

**【自然共生課 濱口課長】**

20 ページの写真については、高知県の自然というテーマに合わせて選定し直すようにします。

**【石川委員】**

フォトコンテストの写真の中から選ぶというのもあると思います。

**【岡村委員】**

4 ページ目、統計は何かを言うために行われるものです。この赤い補助線は明らかにおかしいと思います。1980 年までの近似直線の傾きと 1980 年以降の傾きは全く異なるはずで、気象庁にこういった意図があったのかわからないのですが、この図は無理があると思います。こういったイメージのもとに議論を進めていくと、考え方の大元が狂ってしまいます。何を元に作成しているのか、凡例のキャプションもついていません。1980 年に何があったのかはよく知りませんが、これ以降急激に温暖化が進んでいるので、近似直線は 2 つに分けた方がよいです。140 年間で平均化しても意味がなく、1980 年から急激に温暖化が進んでいることの方が重要で、我々は危機感を持つべきです。これをベースに全てが出来上がっているとすれば我々の議論は間違った方向に進んでしまう可能性がありますので、どうかしていただきたいです。

**【環境計画推進課 田村課長】**

気象庁の図についてはどのように作成されたものかはわからないので、この場で正確にお答えできませんが、改めて精査いたします。

**【一色部会長】**

17 ページ、「高知家の営み」とありますがどういう意味でしょうか。

また、21 ページの下から 2 行目の「好循環」とは何の循環のことですか。全体で使う「循環」は具体的ではなく、象徴的な使い方だと思いますが、何かを説明するときに使う「循環」は何を示すのか明らかにしていただきたいです。

**【環境計画推進課 田村課長】**

「営み」については、高知県で暮らす上での、生活全般のことを抽象的に捉えたものです。「高知家」は、ここ 15 年～20 年の「高知は一つの大家族やき」という県の標語を元にして使っています。「高知県の営み」は、高知県民の生活、暮らしという意味で記載しています。

好循環については再整理しながら言葉を使うようにします。同じ言葉が違う意味の使われ方をされているところもありますので、そういったことのないように、具体がきちんと明確に分かるように整理をしたいと思います。

**【常川委員】**

15 ページ、県民世論調査の結果について、割合だけになっていますので母数を示してほしいと思います。

また、21 ページの自然資本経営に関して、「視点を盛り込む」という表現がありますが、22 ページでは「自然資本経営を実施する」と書いています。自然資本経営を誰が実施するのかを記載した方がよいので、整理していただきたいと思います。

**【環境計画推進課 田村課長】**

15 ページの県民世論調査の母数は記載するようにします。

21 ページについては、自然資本経営の視点、概念、実施など言葉が整理できていない状況です。きちんと整理しながら使い分け、記載していきたいと思います。自然資本経営については、自然をマネジメントしていくということですので、主体として実施するのは県になります。言葉の表現が誤解のないよう再度検討します。

\*\*\*休憩\*\*\*

事務局より資料 1 に基づいて計画案の第 4 章から第 6 章の説明を行った。

**【岡村委員】**

前日も申しましたとおり、目標値が人口動態に伴い、控えめな数値になっているのは大変理解できますし、納得できます。しかし、117 ページの下から 3 つ目の指標について、県内の電気自動車、燃料電池車、プラグインハイブリッド車の保有台数のところに違和感があります。現状が 7 万台、目標が 5 年間で 3 万台に減るとなっていますが、これはこういった想定でしょうか。現状より低くなるのでしょうか。

**【環境計画推進課 田村課長】**

117 ページの数値は誤っており、57 ページの数字（331,960 台）が正確な数値です。

**【岡村委員】**

現状の7万台に対して、5年間で33万台に増えるのでしょうか。数値に違和感があるのですが、どういった推定なのでしょうか。

**【環境計画推進課 原本チーフ】**

委員のおっしゃるとおり、確かに当初設定したよりも伸び率が少なくなっているため、目標の設定の仕方を改めて確認いたします。

**【岡村委員】**

この減少についてもう一点ありまして、高齢化に伴って、普通車から軽自動車へシフトしています。このことはKPIに資するものなのか。軽自動車へのシフトはハイブリット車のようにCO2削減につながるものなのか。軽自動車が全て良いというわけではございませんが、軽自動車へのシフトをどう評価するのか。排気量については下がっていますが、軽自動車は反対に回転数を上げることでパワーを生み出しています。新しいテクノロジーに頼るのではなく、高齢化や人口動態に伴って、軽自動車へのシフトがあることをどう評価していくのかを考えて、現実には則したものにしたい方がよいと思います。

**【環境計画推進課 田村課長】**

「現実には即した」ということについては、考慮しながら検討していきたいと思います。車のサイズ感という観点で、実際に軽自動車への転換はあると思います。一方で、電気自動車やハイブリット車も種類が増えてきており、これまで電気自動車ではなかった車種も出てきているので、これらを正確に反映させることは難しいところですが、どういったKPIが必要なのかも含めて、ご指摘を踏まえ考えていきたいと思います。

**【一色部会長】**

更新版5章の2ページ目以降、高知県における地域循環共生圏等の文章中に高知県におけるウェルビーイングや、自然資本経営の視点などが明示的に分かる表現を入れる必要があります。

また、戦略3 自然環境を守る取組について、KGIのあとに書かれている内容に、自然環境を守る取組に参加経験があるとあります。ところが、具体的な取組では、目標を直接達成させる内容がありません。これはどちらかと言えば、戦略5に関係する指標だと思います。生物多様性を守る取組は、県民が主体的に取り組むものであるというメッセージだと思います。このメッセージを戦略3の中に入れる必要があると思うので、KGIに直接関係する内容が入っていないことも問題ですが、こうした設定のご説明を入れていただきたいと思いません。

**【環境計画推進課 田村課長】**

先にご指摘いただきました122ページの地域循環共生圏の表現については、ウェルビーイングや自然資本経営の考え方を全体に入れてしているので、こちらでも明示的に表現するようにしたいと思います。

**【自然共生課 濱口課長】**

ご指摘は、戦略3のKGIについて、「戦略3 自然環境を守る取組」の下の文章内にKGIにつながる記載がないということだと思いますが、自然環境を守る取組のためには、県民が自ら行動していくことが必要というような文章を入れたいと思います。

**【一色部会長】**

私の指摘は前段の説明に入れるのではなく、具体的な取組の中にKGIの達成に向けたものを入れるべきではないかということです。

**【自然共生課 濱口課長】**

戦略5と重複する部分もありますので、記載の方法を検討させていただきたいと思いません。

**【一色部会長】**

いくつかに共通する表現は他の計画にもあります。KGIと実際の施策の目的に対応関係があるように作ることが大切で、重なることがあるのは問題ありません。重複があっても関わりがあることが分かるような形にした方がよいと思います。

**【自然共生課 濱口課長】**

戦略5の取組の再掲になるとと思いますが、そういった方向で修正いたします。

**【澤村委員】**

57ページのKPIについて、公共交通に関しては現状よりもKGIが低い数字になっています。人口が減っていて、将来の数ではなく毎年となっているので、路面電車にしてみてもときでん交通株式会社との計画もあると思いますが、なぜ3,100人になっているのか教えてください。

**【環境計画推進課 田村課長】**

公共交通利用計画を参考にして設定しています。ご指摘のとおり説明不足だと思いますが、この場での正確な説明は難しいので、意見照会の際に回答させていただきます。

**【濱田委員】**

107ページ、一番下、電力会社の自治体の名前が黒潮町と梶原町が村になっているので訂正してください。

また、全体的にイラストや画像が粗いものがあるので、仕上げる際にきれいにしていきたいと思います。例えば14ページの円グラフが粗過ぎて見づらいので、きれいにしていきたいと思います。

18ページ図12の一番下に3つの○で「循環型社会の実現」「脱炭素社会の実現」「自然共生社会の実現」とありますが、並びの順番には意味があるのでしょうか。次の19ページ以降は全て「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の順になっています。順番を整えた

方が見やすいのではないかと思います。

また、本日いただいた、追加資料の3ページにも表がありますが、真ん中の脱炭素社会が戦略1、左側の循環型社会が戦略2、右側が戦略3になっています。1、2、3と並んだ方がよいと思いますが、並びに狙いがあるのか教えてください。

**【環境計画推進課 田村課長】**

表現については全体的に正確性の精査ができていないところがございます。最終版に向けては、正確性のチェックや画像の粗さについても改善いたします。

図10の18ページの図につきましても、この並びが後のものと違いがあるというお話がございましたので、分かりやすい形で、全体の並びの整合性を合わせてまいりたいと思います。

**【横川委員】**

計画の実現に向けて、各主体がどんな役割を果たすか、前回の計画に比べてかなり書き込んでいただきありがとうございます。前回の総合部会で議論した際に行政機関が何をやるかについて、イノシシやシカに関しては自治体の境目は関係なく、全体の協力が必要だという話がありました。

今日、森の話が出てきまして、高知県の森の保全を考えた時に、国有林抜きで考えることはできません。四国の国有林の大半が高知県にあるわけですから、普通は行政の出先の中心は高松ですが、森林行政は高知県が四国の中心にあるわけですね。そうした他の行政機関との協働がどの程度可能なのか。例えば、県内行政のところを見ますと、124ページの表では、市町村と県とのやりとりは情報共有と書いてありますが、情報共有だけでしょうか。県内の自治体が単独でできないこと、特に協働して行わなければいけない部分については協力や協働の話が入るべきです。また、例えば74ページの行政の一番下について、四国4県で普及促進するとなっていますが、こういったものは他にもあると思います。

絶対に県内自治体が単独ではやれないこと、それから他の行政機関や他県、あるいは国と協働しなければならないというものは、前回の総合部会で出た議論なのでできる範囲で対応をお願いしたいと思います。

**【環境計画推進課 田村課長】**

四国4県との連携について、横川委員がおっしゃるように、レベル感があると思います。情報共有やそこから一步進んだ実際の取組の連携、さらには新たな施策の展開があるので、それぞれの分野において濃淡はありますが、一番は情報共有だと思います。その中で、今回ご指摘もいただきましたので、項目の中で、さらに一步進んで取組の協働という形で記載できるものがないかを考えながら、具体的な取組があるものについては記載したいと思います。また、考え方や方向性として、この取組を連携しながらやっていくということを、情報共有だけではなく、より具体的に、取組も連携するという視点が読めるような形で検討していきたいと思います。実際に具体的に書けるものがあるか検討することと、計画として取り組むにあたっての県のネットワークの記載について考えていきたいと思います。

**【石川委員】**

82 ページ施策3「動植物の情報収集や標本の適正管理」について、来月予定しているシンポジウムで中心になって活動している越知町立横倉山自然の森博物館の方がこの書きぶりについて気にされており、どんな状態になっているか質問されました。

前回までは具体的なものがなかったので、質問はなかったのですが、第五次計画と比較してみたら、最後の「展示による公開を推進します」という記載が消えています。何か意図があるのでしょうか。

**【自然共生課 濱口課長】**

展示による公開の推進を含めて、「実物資料を適切に活用する」という表現にまとめたものです。

**【石川委員】**

「データや実物資料を適切に活用する仕組みをつくる」となっています。活用するためには実物の標本を管理する専門家がいないとできません。そこまで考えた上で書かれていると理解してよろしいでしょうか。

**【自然共生課 濱口課長】**

現状、旧高知県立高知南高等学校の校舎について、NPOが貸与を受けられるよう協議が完了しており、標本を保管する場所を確保したところです。そこに標本を運び込んでいただく予定ですが、それをどのように活用するかについては、今後県とNPOとの協議になると思います。現状では、まだ具体的な協議にまで至っていませんが、将来的に公開や具体的な取組につなげていきたいという意図で書いています。

**【石川委員】**

将来的には、県としてそこまでもっていききたいという意図があると理解してよろしいでしょうか。

**【自然共生課 濱口課長】**

管理する人材をどうするか、例えば県で雇うかどうかということについては、未定です。

**【石川委員】**

人材がいないと活用できないので、正式な職員として雇用する以外にもいろいろな方法があるわけです。そこまで含めれば当然、専門家や人材をここに雇うといった方向性は持っているという理解してよいでしょうか。

**【自然共生課 濱口課長】**

今後協議していく部分だと捉えています。

**【石川委員】**

ただ、「活用」という文言を使いますと、博物館関係でこういった標本を扱っている人たちは管理する専門家を雇うと理解します。目標として書かれていますので、そのへんの誤解がないように考えていただかないと、そのような理解をされてしまうということを申し上げさせていただきました。

**【自然共生課 濱口課長】**

校舎の貸与を受けたNPOとの話の中で、標本を活用して展示などに使う予定であると聞いています。それを踏まえて書いています。

**【石川委員】**

県での雇用ではないですが、いろいろなところで活躍している人を抱き込む仕組みを考えているということですね。

**【自然共生課 濱口課長】**

はい。

**【常川委員】**

57 ページのKPIの数値設定について、路面電車、公共交通の目標件数が減っています。また、114 ページの資料のアンケート結果については、現状の速報値が非常に高くなっているにも関わらず、目標が7割と控えめになっています。どのような意図があるのか補足をお願いします。この目標数字にする場合、根拠など補足があるとよいと思いました。

もう一つ、100 ページ、課長の説明の中で、Society5.0とGXの話がありましたが、文章中にGXという用語を見つけられませんでした。もし入っていないのであれば入れた方がよいのではないのでしょうか。

**【環境計画推進課 田村課長】**

114 ページのKPIについては担当課と確認し、より適切な目標値となるよう調整したいと思います。GXについては本文でも触れるようにします。

**【一色部会長】**

46 ページの再生可能エネルギーの導入に関して、「地域と事業者のコミュニケーション不足により、地域住民の反対運動に発展するようなケースが全国的に発生する」とありますが、地域住民と事業者のコミュニケーション不足ではなく、事業者の提案が環境に配慮したものになっていないところに主要な原因があります。コミュニケーションでいくら解消しようとしても絶対にできないわけです。したがって、環境基本計画にこういった書き方をすべきではないと思います。やはり、誰が問題なのかということがきちんと書かれ、その上でそもそも事業者に対して環境保全をきちんとできるような計画をきちんと作りなさいということを明示する必要があります。

47 ページの施策1も、住民に対して分かりやすい説明を行うことを働きかけるのではな

く、それ以前に環境保全策も十分とした事業計画を作ることを働きかけるのが筋だと思います。そういう意味で私は基本意識を疑いました。

これは非常に大きな問題でして、これが計画としてそのまま県民の方に届きましたら、県は一体何を考えているのだろうという非常に強い批判を受けることになると思いますので、これに関してはぜひ十分な記載をしていただきたいと思います。

48 ページの事業者に対する主体別の主な役割でも、説明と合意形成を重視する前に、事業者が環境を守らせるための事業計画を作らせるということを最初にもっていくべきであって、そこがコミュニケーションの問題にすり替えたらだめだろうと思います。

#### 【環境計画推進課 田村課長】

我々としても推進することだけではなく、規制をする立場もございますので、環境をしっかりと守った上での開発となると思います。その点はこの環境基本計画の中においてもしっかりと掲げるようにしたいと考えています。

その上で、当然法令遵守、さらに環境に配慮した設備や開発にプラスとして、きちんと地域の住民とコミュニケーションをとりながら共生していく。この順番だと考えておりますので、今の一色会長のご指摘も踏まえて、この部分は県としてしっかりと事業者にも求めていくというスタンスをこの基本計画の中で明示したいと考えています。

これは地球温暖化対策の個別計画の方でも同様の指摘を受けたところでございますので、しっかりと記載をして、県民に県としてのスタンスをお伝えしたいと思います。

#### 【一色部会長】

60 ページ、マイバッグについて2か所あったと思いますが、他の取組と比較した際、マイバッグはあまりにも具体的で、しかもマイバッグの使用が直接循環型社会の実現に資するかというと、その貢献は極めて小さく、象徴的なスローガンだと思います。

基本的に使い捨てるものはなるべく使わないようにしましょう、削減しましょうという啓発の一環としてマイバックの使用があるはずで、やはり主な役割として書く時には象徴的なことではなく、実効性のある役割を書くようにしてください。具体的には「使い捨て製品はできるだけ使わない。あるいは削減する」という表現にするなど、もう少し一般性があるような表現に変えた方がよいと思います。

#### 【環境計画推進課 田村課長】

表現の仕方については、最終段階にて検討していきます。

#### 【石川委員】

先ほど戦略3のKGIについて、具体的なKPIが必要ではないかという指摘がありました。提案ですが、戦略3、5はかなりオーバーラップし、両方とも入れてもらってよいですが、戦略5の下から4番目のところに生物多様性こうち戦略推進リーダー登録者数があります。生物多様性リーダーに登録してもらっただけでは具体的な実行性のある活動が担保されないため、推進リーダーの現場活動体験ツアーを始めています。その参加者数をKPIに加えていただくと良いと思います。

今年も何度か実施しています。先日には四万十町遠山の「遠山を守る会」の活動に参加しました。湿地に穴を掘って、彫り上げた土を播きだして、埋土種子から絶滅した種が回復してくるか実験を行いました。その前に行った植物観察会も含めて参加人数は20から30人程度だったと思います。目標人数についてはえこらぼの方と相談していただいて加えていただくと、かなり具体的な例示として設定でき、モチベーションの向上にもつながると思いますので、何卒よろしくをお願いします。

**【自然共生課 濱口課長】**

設定は可能だと思いますが、例えば、100人となると難しいので人数のレベル感については検討させていただきたいと思います。

**【石川委員】**

第五次計画の方では、巻末に用語解説が入っていたのですが、かなり新しい言葉が出てきているので今回も入れる予定ということでしょうか。

**【環境計画推進課 田村課長】**

用語解説は入れるようにいたします。

**【一色部会長】**

今後、各委員に対して意見照会をするということなので、ご指摘やご意見についてはそちらの機会を利用して提出をお願いいたします。それでは、本日の第六次計画素案に関する検討を終了させていただきまして、事務局から今後のスケジュールについて説明をお願いいたします。

事務局より資料2に基づいて今後のスケジュールについて説明を行った。

(質疑応答なし)

**【一色部会長】**

特に質問はないようですので、これで審議を終了いたします。